よこてネット

秋田県立横手支援学校

支援部報 No. ５
令和５年２月７日

「高等学校特別支援隊の取組から」

教 頭　　阿部 裕子

今年度も高等学校特別支援隊では、高等学校へ訪問しての相談支援や高等学校の先生方を対象とした研修会を実施しました。訪問の機会を校内での特別支援の体制を構築する機会と捉え、関係の職員全員でケース検討をする学校や「分かりやすさ」を支援の必要な生徒だけでなく全体への支援として考え、環境や教材などを工夫する学校が増えています。

また、今年度の研修会は就労支援にスポットをあて、秋田障害者職業センターの業務やネット横手障害者就業・生活支援センターでの就労支援の実際について紹介しました。参加された先生方のアンケートから、就労に大切なこととしてあげられたことを紹介します。

自己理解のサポート

・障害の有無ではなく、どのようなくせがどの程度あるのかに注意を払うことが大切であることが分かった。自分のくせを知ること、どのような支援があるとできるのかを生徒と一緒に考えることが就労につながるということが参考になった。

→講師の方からは、自己理解の方法の一つとして自分の「トリセツ（取扱い説明書）」作りが紹介されました。「トリセツ」を作る中で、自分自身を客観的に捉え、自分の特徴や得意・苦手、職場に依頼したい配慮事項などを教師と一緒に考える過程や実際に自分で使い、役に立つことを実感することが大切です。障害名で判断するのではなく、くせと捉えるという考え方が参考になりました。

厚生労働省の「就労パスポート」も参考になります（厚生労働省ＨＰに掲載されています）。

関係機関との連携

・学校でやるべきこと、関係機関と連携することの内容が分かった。連携の重要性や連携の方法についての具体が大変参考になった。

→各機関で何ができるのか（何を相談すればよいのか）が分かった、という声が複数ありました。ケースに応じて連携する機関を知ることがスムーズな連携につながります。連携機関や連携の仕方についても支援隊でサポートします。

情報共有の大切さ

・普段の生活の中で感じた違和感をそのままにせず職員で情報共有し、本人との関係を構築していくことで本人のことがよく見えてくる。

→在学中に感じた違和感が就労後に顕在化する例があります。小さなことでも職員間で共有し、日常の様子を情報交換することで、一人では気付かなかったことが見えることもあります。

12 月 22 日に行われた高等学校特別支援隊の連絡会議では、今回の研修会の内容を校内研修として実施することも可能であることや、誰かに「相談する」方法を身に付けることが重要であるとの話がありました。校内の担当者が変わっても同様の支援ができるように、一人の生徒への支援の流れや支援方法、関わった機関などについて、校内の財産として蓄積していくことが重要であるということも話題となりました。今後も高等学校の支援体制の構築に向けサポートをしていきます。

本校の ICT 活用の取組について　Ver.3

令和３～４年度の「ｅ－ＡＫＩＴＡ　ＩＣＴ学び推進プラン事業」ＩＣＴ活用推進モデル校の取組の成果を発信することを目的に令和４年 12 月 14 日に公開研究会を実施しました。公開研究会は新型コロナウイルス感染症予防のため、完全オンラインで実施し、事前録画配信による授業提示や実践事例紹介等とＺｏｏｍを用いたＷｅｂ会議の形式で開催しました。当日は人数を制限し本校職員と県内特別支援学校から 20 名の参加者が、小学部、中学部、高等部の三つの分科会に分かれ、提示授業についての協議やＩＣＴ活用事例の紹介等活発に話し合いを行いました。

２年間の取組を通して、「書字の負担を軽減する」ために学習支援アプリを活用した実践や「覚える内容を減らして安心して学習に取り組めるようにする」ためのプレゼンテーション作成アプリを活用した実践、「写真や動画等で視覚的な提示をし、理解を深める」ためのタブレット型端末の写真・動画撮影機能を活用した実践など、様々な意図での幅広い授業実践が行われました。

これらの実践については「ＩＣＴ活用事例集」や「ICT だより」で、延べ 100 例を掲載しています。こちらは本校ホームページにて公開しています。ぜひご覧ください。

＜本校ホームページアドレス＞
http://www.yokote-s@akita-pref.ed.jp

事前動画配信の授業提示では、複数の方向から撮影した動画を一つにまとめ、配信しました。

公開研究会当日は本校職員も各教室に分かれてオンラインでの協議に参加しました。